

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和3年4月30日

【発行者名】 UBS (Lux) キー・セレクション・シキャブ
(UBS (Lux) Key Selection SICAV)

【代表者の役職氏名】 チェアマン・オブ・ザ・ボード・オブ・ディレクターズ
ロバート・シュティンガー (Robert Süttinger)
メンバー・オブ・ザ・ボード・オブ・ディレクターズ
トーマス・ローズ (Thomas Rose)

【本店の所在の場所】 ルクセンブルグ大公国、ルクセンブルグ L - 1855、J.F.ケネディ通り
33A
(33A avenue J.F. Kennedy, L-1855 Luxembourg, Grand Duchy of
Luxembourg)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 三 浦 健
弁護士 大 西 信 治

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【事務連絡者氏名】 弁護士 三 浦 健
弁護士 大 西 信 治
弁護士 白 川 剛 士

【連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【電話番号】 03 (6212) 8316

【届出の対象とした募集(売出)外国投資証券に係る外国投資法人の名称】
UBS (Lux) キー・セレクション・シキャブ
- システマティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ
(米ドル)
(UBS (Lux) Key Selection SICAV
- Systematic Allocation Portfolio Equity (USD))

【届出の対象とした募集(売出)外国投資証券の形態及び金額】
記名式無額面投資証券
システマティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ
(米ドル)
クラス F - a c c 投資証券
クラス F - a c c (円ヘッジ) 投資証券
上限見込額は以下のとおりである。
システマティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ
(米ドル)
クラス F - a c c 投資証券 10億3,570万米ドル
(約1,072億円)
クラス F - a c c (円ヘッジ) 投資証券 1,011億円

- (注1) 上限見込額は、便宜上、各クラスの投資証券の2020年12月末日現在の1口当たりの純資産価格に基づいて算出されている。
(システムティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ(米ドル)クラスF - a c c 投資証券については103.57米ドルに1,000万口を、システムティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ(米ドル)クラスF - a c c (円ヘッジ) 投資証券については10,105円に1,000万口を、それぞれ乗じて算出した金額である。)
- (注2) ファンドは、ルクセンブルグ法に基づいて設立されているが、投資証券は米ドル建てまたは円建てのため、以下の金額表示は別段の記載がない限り米ドルまたは円貨をもって行う。
- (注3) 米ドルの円貨換算は、便宜上、2020年12月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値(1米ドル=103.50円)による。

【縦覧に供する場所】 該当事項なし

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2021年3月31日に提出した有価証券届出書(以下「原届出書」といいます。)について、2021年3月10日付でファンドの設立地における目論見書が変更され、投資方針および投資リスクが変更されましたので、また、2021年5月2日付で払込取扱場所が変更されますので、これに関する記載を訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

(注)下線または傍線部は訂正部分を示します。

2【訂正の内容】

第一部 証券情報

第1 外国投資証券(外国新投資口予約権証券及び外国投資法人債券を除く。)

(12) 払込取扱場所

<訂正前>

UBS証券株式会社 東京都千代田区大手町一丁目5番1号
大手町ファーストスクエア イーストタワー

各申込日の発行価格の総額は、申込日から起算してルクセンブルグにおける4営業日目(以下「ファンド払込日」という。)に日本における販売会社によって保管受託銀行であるUBSヨーロッパ ルクセンブルグ支店のファンド口座に表示通貨で払い込まれる。

<訂正後>

UBS証券株式会社 東京都千代田区大手町一丁目5番1号
大手町ファーストスクエア イーストタワー(注)

各申込日の発行価格の総額は、申込日から起算してルクセンブルグにおける4営業日目(以下「ファンド払込日」という。)に日本における販売会社によって保管受託銀行であるUBSヨーロッパ ルクセンブルグ支店のファンド口座に表示通貨で払い込まれる。

(注)2021年5月2日に、東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワーに変更する予定である。

第二部 ファンド情報

第1 ファンドの状況

2 投資方針

(1) 投資方針

<訂正前>

一般投資原則

(中略)

サブ・ファンドの投資は、市場、セクター、発行体、格付けおよび企業別に幅広く分散化すべきである。関係するサブ・ファンドの投資方針に異なる定めがない限り、サブ・ファンドは、純資産の10%を限度として、既存のUCITS(譲渡性証券集合投資事業)およびUCI(集合投資事業)に投資することができる。

システムティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ(米ドル)

(中略)

UBS(Lux)キー・セレクション・シキャブ-システムティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ(米ドル)の目的は、新興市場を含むグローバルな株式市場の成長の可能性に幅広い方法で参加することである。この目的のために、サブ・ファンドは、資産をこれらの資産クラスに配分するモデルに基づき、主に株式、債券および短期金融商品に投資する。このモデルは、市場トレン

ドを特定し、資産配分をこれらのトレンドと整合させ、それによって株式市場の大幅な下落時の損失を減らすことを目的とするシステムティック・アプローチに基づいている。このプロセスは、企業の利益、市場リスク、株式市場のモメンタムに関する、さまざまな短期および長期の指標を考慮に入れている。このため、ネットの株式エクスポージャーは最大175%まで大きく変動する可能性がある。サブ・ファンドが高い株式エクスポージャーをもつ局面では、サブ・ファンドは60%まで債券のショート・エクスポージャーをもつ可能性がある。このようなショート・ポジションを構築するために、サブ・ファンドは、後記「(4) 投資制限 5 有価証券および短期金融商品を裏付資産とする特別の技法および手段」の項に従って、債券先物などの取引所取引デリバティブ商品を利用する。資産のショート・ポジションをとることにより生じる潜在的な損失は、価格の上昇に上限がないため、無限定になる場合がある。これらの資産の価格が急激に上昇すると、多額の損失を被る可能性がある。サブ・ファンドは現物の空売りは行わない。このモデルが株式市場のトレンドをマイナスと見なす局面では、ネットの株式エクスポージャーは完全に縮小することがある。この場合、債券、短期金融商品および/または現金への投資は相対的に高くなる。サブ・ファンドは、不動産投資信託(以下「不動産投資信託」という。)に補助的に投資することができる。不動産投資信託の投資は、()UCITSもしくはその他のUCI、または()譲渡可能証券の基準を満たす場合に認められる。規制市場に上場されているクローズド・エンド型不動産投資信託は、規制市場に上場されている証券の基準を満たしており、ルクセンブルグ法に基づきサブ・ファンドに許容される投資を構成する。サブ・ファンドは、UCIまたはUCITSを通じて直接または間接的に資産の100%まで投資することができる。間接的な投資方法と関連する費用は、後記「3 投資リスク リスク要因 UCIおよびUCITSへの投資」の項で説明される。投資の目的を達成するために、サブ・ファンドは、ヘッジまたは投資の目的のために使用することのできる他のすべての法的に許容される金融商品(デリバティブ金融商品を含む)を使用することもできる。関連するリスクについては、後記「3 投資リスク リスク要因 派生商品の利用に伴うリスク」の項に記載される。サブ・ファンドは、そのグローバルな傾向から、多くの外貨に投資しているため、関連する外貨リスクを低減するために、ポートフォリオまたはその一部をサブ・ファンドの基準通貨に対してヘッジすることができる。投資家は、サブ・ファンドのエクスポージャーには、上海-香港ストック・コネクトまたは深圳-香港ストック・コネクトを通じて取引される中国A株式も含まれる可能性があることに留意すべきである。中国A株は、中国本土に所在する会社の人民元建てのA株であり、上海証券取引所や深圳証券取引所などの中国の証券取引所で取引されている。サブ・ファンドは、先進国市場と新興国市場の両方に投資する可能性がある。関連するリスクは、後記「3 投資リスク リスク要因 一般的ナリスク情報」の項に列挙される。上記に加えて、投資家は、上海-香港ストック・コネクトまたは深圳-香港ストック・コネクトを通じて取引される投資に関連するリスクを読み、認識し、考慮すべきである。本事項に関する情報は、後記「3 投資リスク リスク要因 一般的ナリスク情報」以降に記載される。以上の理由から、サブ・ファンドはリスク意識のある投資家に特に適している。

基準通貨は、米ドルである。

(後略)

<訂正後>

一般投資原則

(中略)

サブ・ファンドの投資は、市場、セクター、発行体、格付けおよび企業別に幅広く分散化すべきである。関係するサブ・ファンドの投資方針に異なる定めがない限り、サブ・ファンドは、純資産の10%を限度として、既存のUCITS(譲渡性証券集合投資事業)およびUCI(集合投資事業)に投資することができる。

ESGインテグレーション

UBSアセット・マネジメントは、一定のサブ・ファンドを「ESG統合型ファンド」に分類している。投資運用会社は、投資プロセスにサステナビリティを組み込みつつ投資家の財務上の目標を達成することを目指す。投資運用会社は、サステナビリティを、発行体の長期的なパフォーマンスに寄与する投資機会の創出およびリスクの軽減を図りながら事業慣行の環境面、社会面およびガバナンス面(ESG)の要因を活用する能力(以下「サステナビリティ」という。)と定義している。投資運用会社は、これらの要因を考慮すればより十分な情報を得た上での投資決定が実現されると考えている。ESG統合型ファンドは、投資ユニバースが絞り込まれていることがある、ESG特性を推進している投資信託またはサステナビリティもしくはインパクトにおける具体的な目標を有する投資信託とは異なり、財務パフォーマンスを最大化することを主に目指す投資信託であり、そのためESGの諸側面が投資プロセスにおけるインプット要因となっている。アクティブ運用を行うすべての投資信託に適用される投資ユニバースの制限は、サステナビリティ・エクスクルージョン・ポリシーに取り込まれている。該当する場合、さらなる強制力のある要因がサブ・ファンドの投資方針において概説される。

ESGインテグレーションは、リサーチ・プロセスの一環として重大なESGリスクを検討することにより行われる。企業発行体の場合、このプロセスでは投資決定に影響を及ぼす可能性がある財務上関連する要因をセクター毎に特定するESG重大問題の枠組みを利用する。財務上の重要性に対するかかる姿勢により、企業の財務パフォーマンス、ひいては投資リターンに影響を及ぼす可能性があるサステナビリティ要因をアナリストが重視することが確保される。また、ESGインテグレーションにより、企業のESGリスク・プロファイルを改善し、これにより企業の財務パフォーマンスに対してESG上の問題が及ぼす潜在的な悪影響を軽減するためのエンゲージメントの機会を見出すことができる。投資運用会社は、重大なESGリスクがある企業を識別するために、複数のESGのデータ・ソースを組み合わせた独自のESGリスク・ダッシュボードを用いている。投資運用会社の投資の意思決定プロセスにESGリスクが組み入れられるようにするため、次に取るべき行動の決定に役立つリスク・シグナルが投資運用会社に対してESGリスクを明確に示す。企業以外の発行体の場合、投資運用会社は、最も重要なESG要因に関するデータを統合した定性的または定量的なESGリスク評価を適用することができる。重大なサステナビリティ/ESGに関する検討事項の分析には、とりわけカーボン・フットプリント、健康および福祉、人権、サプライ・チェーンの管理、顧客の公平な取扱いならびにガバナンス等の様々な側面を含めることができる。

投資運用会社は、根底となる戦略(対象投資信託を含む。)における配分時にESGインテグレーションを考慮に入れる。UBSが運用する根底となる戦略の場合、投資運用会社は、ESGインテグレーションに関する上記リサーチに基づきESG統合資産を特定する。外部により運用される戦略の場合、ESG統合資産は、第三者提供会社によるリサーチの過程で特定される。

サステナビリティ・エクスクルージョン・ポリシー

投資運用会社のサステナビリティ・エクスクルージョン・ポリシーは、すべてのアクティブな投資戦略に適用される除外(エクスクルージョン)事項を概説したものであり、ひいてはアクティブ運用を行う投資信託の投資ユニバースを制限するものである。

<https://www.ubs.com/global/en/asset-management/investment-capabilities/sustainability.html>

サステナビリティに関する年次報告

「UBSのサステナビリティ報告書」はUBSによるサステナビリティ情報開示を行うための手段である。当該報告書は毎年公表され、オープンにかつ透明性をもってUBSのサステナビリティ

へのアプローチおよびサステナビリティに向けた活動を開示することを目的とし、UBSの情報ポリシーおよび情報開示に関する原則を一貫して適用している。

<https://www.ubs.com/global/en/asset-management/investment-capabilities/sustainability.html>

システムティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ(米ドル)

(中略)

UBS (Lux) キー・セレクション・シキャブ - システムティック・アロケーション・ポートフォリオ・エクイティ(米ドル)の目的は、新興市場を含むグローバルな株式市場の成長の可能性に幅広い方法で参加することである。この目的のために、サブ・ファンドは、資産をこれらの資産クラスに配分するモデルに基づき、主に株式、債券および短期金融商品に投資する。このモデルは、市場トレンドを特定し、資産配分をこれらのトレンドと整合させ、それによって株式市場の大幅な下落時の損失を減らすことを目的とするシステムティック・アプローチに基づいている。このプロセスは、企業の利益、市場リスク、株式市場のモメンタムに関する、さまざまな短期および長期の指標を考慮に入れている。このため、ネットの株式エクスポージャーは最大175%まで大きく変動する可能性がある。サブ・ファンドが高い株式エクスポージャーをもつ局面では、サブ・ファンドは60%まで債券のショート・エクスポージャーをもつ可能性がある。このようなショート・ポジションを構築するために、サブ・ファンドは、後記「(4)投資制限 5 有価証券および短期金融商品を裏付資産とする特別の技法および手段」の項に従って、債券先物などの取引所取引デリバティブ商品を利用する。資産のショート・ポジションをとることにより生じる潜在的な損失は、価格の上昇に上限がないため、無限定になる場合がある。これらの資産の価格が急激に上昇すると、多額の損失を被る可能性がある。サブ・ファンドは現物の空売りは行わない。このモデルが株式市場のトレンドをマイナスと見なす局面では、ネットの株式エクスポージャーは完全に縮小することがある。この場合、債券、短期金融商品および/または現金への投資は相対的に高くなる。サブ・ファンドは、不動産投資信託(以下「不動産投資信託」という。)に補助的に投資することができる。不動産投資信託の投資は、()UCITSもしくはその他のUCI、または()譲渡可能証券の基準を満たす場合に認められる。規制市場に上場されているクローズド・エンド型不動産投資信託は、規制市場に上場されている証券の基準を満たしており、ルクセンブルグ法に基づきサブ・ファンドに許容される投資を構成する。サブ・ファンドは、UCIまたはUCITSを通じて直接または間接的に資産の100%まで投資することができる。間接的な投資方法と関連する費用は、後記「3 投資リスク リスク要因 UCIおよびUCITSへの投資」の項で説明される。投資の目的を達成するために、サブ・ファンドは、ヘッジまたは投資の目的のために使用することのできる他のすべての法的に許容される金融商品(デリバティブ金融商品を含む)を使用することもできる。関連するリスクについては、後記「3 投資リスク リスク要因 派生商品の利用に伴うリスク」の項に記載される。サブ・ファンドは、そのグローバルな傾向から、多くの外貨に投資しているため、関連する外貨リスクを低減するために、ポートフォリオまたはその一部をサブ・ファンドの基準通貨に対してヘッジすることができる。投資家は、サブ・ファンドのエクスポージャーには、上海-香港ストック・コネクトまたは深圳-香港ストック・コネクトを通じて取引される中国A株式も含まれる可能性があることに留意すべきである。中国A株は、中国本土に所在する会社の人民元建てのA株であり、上海証券取引所や深圳証券取引所などの中国の証券取引所で取引されている。サブ・ファンドは、先進国市場と新興国市場の両方に投資する可能性がある。関連するリスクは、後記「3 投資リスク リスク要因 一般的ナリスク情報」の項に列挙される。上記に加えて、投資家は、上海-香港ストック・コネクトまたは深圳-香港ストック・コネクトを通じて取引される投資に関連するリスクを読み、認識し、考慮すべきである。本事項に関する情報は、後記「3 投資リスク リスク要因 一般的ナリスク情報」以降に記載される。以上の理由から、サブ・ファンドはリスク意識のある投資家に特に適している。

サブ・ファンドは、環境面、社会面またはガバナンス面（ESG）の特性を推進しているものではなく、サステナビリティまたはインパクトにおける目標を追求しているものでもない。投資戦略および原投資対象の種類に基づいてサステナビリティ・リスクが体系的に統合されるわけではない。サブ・ファンドは、根底となるESG統合型戦略に投資することができる。ただし、かかる投資への配分が行われることにより、UBSアセット・マネジメントが本サブ・ファンドをESG統合型ファンドに区分することが可能となるわけではない。現在のところ、サステナビリティ・リスクがサブ・ファンドのリターンに大きな影響を及ぼすとは予想されていない。

基準通貨は、米ドルである。

（後略）

3 投資リスク

リスク要因

<訂正前>

（前略）

サブ・ファンドは、個々のサブ・ファンドの新興市場への投資の配分に応じてリスクを意識する投資家を対象としている。これに関しては、本書の「典型的な投資家の特性」の項を参照されたい。

中華人民共和国（以下「中国」という。）に投資する際の特定リスク

（後略）

<訂正後>

（前略）

サブ・ファンドは、個々のサブ・ファンドの新興市場への投資の配分に応じてリスクを意識する投資家を対象としている。これに関しては、本書の「典型的な投資家の特性」の項を参照されたい。

ESGリスク

「サステナビリティ・リスク」とは、発生した場合、実際にまたは潜在的に投資価値に重大な悪影響をもたらすおそれのある環境、社会またはガバナンスに関する事由または状況をいう。投資に伴うサステナビリティ・リスクが現実のものとなった場合には、投資価値の減少につながるおそれがある。

中華人民共和国（以下「中国」という。）に投資する際の特定リスク

（後略）

6 手続等の概要

販売手続等

<訂正前>

申込取扱場所

UBS証券株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
丸の内永楽ビルディング

払込取扱場所

UBS証券株式会社 東京都千代田区大手町一丁目5番1号 大手町ファーストスクエア
イーストタワー

(注)各申込日の発行価格の総額は、申込日から起算してルクセンブルグにおける4営業日目(「ファンド払込日」)に日本における販売会社によって保管受託銀行であるUBSヨーロッパSE ルクセンブルグ支店のファンド口座に表示通貨で払い込まれる。

(後略)

<訂正後>

申込取扱場所

UBS証券株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
丸の内永楽ビルディング

払込取扱場所

UBS証券株式会社 東京都千代田区大手町一丁目5番1号 大手町ファーストスクエア
イーストタワー(注2)

(注1)各申込日の発行価格の総額は、申込日から起算してルクセンブルグにおける4営業日目(「ファンド払込日」)に日本における販売会社によって保管受託銀行であるUBSヨーロッパSE ルクセンブルグ支店のファンド口座に表示通貨で払い込まれる。

(注2)2021年5月2日に、東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワーに変更する予定である。

(後略)